

## ◆ 検校坊快鎮と天満宮御文庫

「天満宮御文庫書籍寄進帳」という資料が太宰府天満宮に残っています。延宝4（1676）年から元文4（1739）年にかけて太宰府天満宮に寄進された書籍と寄進者の目録で、381部3500冊におよぶ書籍が記されています。

この文庫を創立したのは、太宰府天満宮の社僧の検校坊快鎮という人物です。文学に志しある人の拠り所になれば、との思いで、神殿の北西の位置に文庫を建立しました。四方の国から経史その他もろもろの書籍が集まって、大層な神宝になったといえます。

寄進された書籍は漢籍・和歌書・神道書・歴史書・系図・地図等多岐にわたります。

寄進者を見てみますと、冒頭には創立者である快鎮の名前が見え、京都にいた東坊城・五条・高辻（いずれも菅原氏）各氏の公家、福岡藩主黒田氏とそ  
の家族ならびに藩士、太宰府天満宮別当大鳥居信兼他社僧、京都在住の松下見林・香月牛山などの学者、大坂や京都の書籍の版元など身分的にも地域的にも幅広い人物がならんでいます。

特に寄進者の中で注目されるのは、福

## 太宰府人物志

資料室だより②

岡藩の学者、貝原益軒です。福岡藩の藩史『黒田家譜』や地誌『筑前国統風土記』を編集したのをはじめ、数多くの著書を持つ全国的に知られた人物です。

貝原益軒の太宰府天満宮尊崇の念は非常に篤いものでした。益軒は『太宰府天満宮故実』という太宰府天満宮についての研究書を著し、奉納しています。寄進帳にも益軒とその兄・妻や息子等で、14部51冊という多数の書籍を寄進したことが見えています。上記の天満宮御文庫への幅広い寄進者も貝原益軒のつてがあったからとの指摘がなされています。

寄進帳に「二、扶桑拾葉集三十六卷 水戸中納言様」との記述があります。これは徳川光圀のことで、『大日本史』編纂のために来福しています。その時益軒が世話をしたので、これが機縁となって書籍寄進が実現したと考えられます。このように書籍寄進者は何らかの形で益軒と関係ある人物が多かったようです。

市史資料室 朱雀 信城